

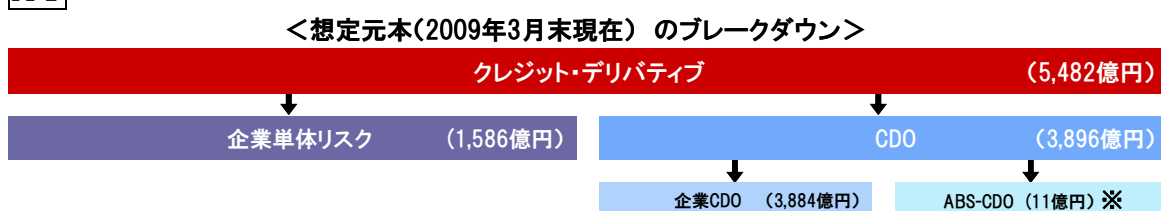
クレジット・デリバティブ等の状況アップデート(2009年3月末現在)

前四半期末同様、「クレジット・デリバティブ」ならびに「米国モノラインからの受再」につき、当四半期末の状況をQ&A形式でご報告します。2009年3月末現在の状況は以下のとおりです。

◆ 「クレジット・デリバティブ」について

Q 1 : 想定元本 (2009年3月末現在) の内訳を教えてください。

A 1



※サブプライムを含むものではありません。

- ・ 想定元本の総額は 5,482 億円 (前四半期末比▲133 億円)。うち企業単体リスクの引受が 1,586 億円 (同▲77 億円)、CDOの引受が 3,896 億円 (同▲55 億円) です。
- ・ CDOの想定元本 3,896 億円のうち、企業CDOに係るものが 3,884 億円、ABS-CDOに係るものが 11 億円です。
- ・ 「クレジット・デリバティブ」における引受リスクは、想定元本の 99%が企業の信用リスクです。引受けているリスクの中に米国サブプライムは含まれておりません。

Q 2 : 格付け別の残高構成を教えてください。

A 2

企業単体リスクの引受

(億円)

格付け	引受残高(構成比)						
	国内企業		海外企業		うち 金融機関		
AAA格	49	(3.1%)	39	(3.1%)	9	(3.3%)	-
AA格	865	(54.6%)	764	(59.4%)	101	(33.8%)	-
A格	582	(36.7%)	462	(35.9%)	120	(40.1%)	-
BBB格	88	(5.6%)	20	(1.6%)	68	(22.9%)	39
BB格以下	-	(-)	-	(-)	-	(-)	-
合計	1,586	(100%)	1,285	(100%)	300	(100%)	39

CDO トランシェの引受

(億円)

格付け	引受残高(構成比)	
AAA格	3,530	(90.6%)
AA格	218	(5.6%)
A格	49	(1.3%)
BBB格	49	(1.3%)
BB格以下	49	(1.3%)
合計	3,896	(100%)

- ・ 上表のとおりです。
- ・ 企業単体リスクの引受に関しては、A格以上の企業がポートフォリオの 94%を占めております。
- ・ また、CDOに関しては、AAA格以上が 91%、AA格以上が 96%を占めております。

Q3：「企業単体リスク」ポートフォリオの分散状況につき教えてほしい。

A3

- ・ 国内 69 社、海外 15 社の信用リスクを個別に引き受けており、1 与信先あたりの平均引受額は 18 億円です。

Q4：「CDO トランシェの引受」の平均的な劣後割合は何%か？

A4

- ・ 平均劣後割合（トランシェの引受額による加重平均）は 18%です。

Q5：クレジット・デリバティブの評価損益（2008 年度）は？

A5

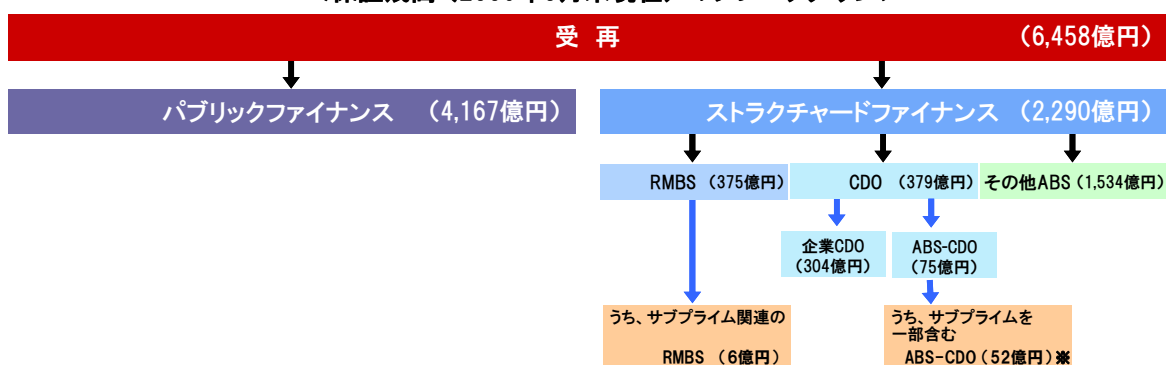
- ・ 評価損▲67 億円（企業単体リスク▲47 億円、企業 CDO▲21 億円、ABS-CDO +1 億円）を計上しました。

◆ 「米国モノラインからの受再」について

Q1：保証残高（2009 年 3 月末現在）の内訳を教えてほしい。

A1

<保証残高（2009年3月末現在）のブレイクダウン>



※ただし、サブプライムへの実質的エクスポージャーは5億円

- ・ 保証残高の総額は 6,458 億円（前四半期末比 +279 億円）。うちパブリックファイナンスに係る残高が 4,167 億円（同 +189 億円）、ストラクチャードファイナンスに係る残高が 2,290 億円（同 +90 億円）です。
- ・ ストラクチャードファイナンスに係る残高 2,290 億円のうち、RMBS に係るものが 375 億円、CDO に係るものが 379 億円、その他 ABS に係るものが 1,534 億円です。
- ・ なお、RMBS ならびに ABS-CDO の中に米国サブプライムを一部含むものがありますが、実質的なエクスポージャーは計 12 億円であります（決算短信 50 ページご参照）。

Q 2 : 「米国モノラインからの受再」ポートフォリオに占める CDO の割合 (特に ABS-CDO の割合) は米国モノラインの元受ポートフォリオにおける平均的な割合よりかなり低くなっているが、それはなぜか?

A 2

- ・ 金融サービス事業に係る受再は、再保険特約等を通じ米国モノラインから原債権の信用リスクの一部を引き受けるものですが、引受ポートフォリオが当社の引受ポリシーを反映したものになるよう条件設定をしております。
- ・ ポートフォリオに占める CDO の割合 (特に ABS-CDO の割合) が低いのはこのためです。
- ・ なお、以上のような理由から、「米国モノラインからの受再」ポートフォリオは、元受モノラインが元受で引き受けているポートフォリオと相似形にはなっていません。

Q 3 : 格付け別の残高構成を教えてください。

A 3

(億円)

格付け	引受残高(構成比)
AAA格	898 (13.9%)
AA格	1,655 (25.6%)
A格	2,178 (33.7%)
BBB格	1,501 (23.2%)
BB格以下	223 (3.5%)
合計	6,458 (100%)

- ・ 上表のとおり、A格以上が 73%、B B B 格以上が 97%と、総体として良好なレベルを維持しております。

Q 4 : 元受モノライン自身の格下げが、貴社の受再ポートフォリオに影響を及ぼすことはないのか?

A 4

- ・ 当社が受再で引き受けているリスクは元受モノライン自体の信用リスクではなく、元受モノラインが引き受けた地方債や ABS など (原債権) の信用リスクです。
- ・ したがって、元受モノラインの格付低下により、当社が受再を通じて引き受けているリスクの内容やクオリティに影響を受けることはありません。

<ご参考> なお、米国モノラインに対する与信 (2009年3月末現在) としては、以下のものがあります。

- モノラインを単独の参照企業とするクレジット・デリバティブ (想定元本 29 億円)。
- このほか、モノライン保証債に関する保証・引受等が 98 億円、モノライン保証債への投資が 10 億円。(これらについて当社側に支払責任 (または実現損) が発生するのは、「原債券」と「当該債券を保証しているモノライン」の両方がデフォルトした場合に限られます。)

Q 5 : 「米国モノラインからの受再」に関して 2008 年度に発生したロスの金額は？

A 5

- ・ 支払保険金と支払備金の合計で 39 億円（うち RMBS が 33 億円）です。なお、このうち 2008 年度第 4 四半期に計上したものは 11 億円です。

Q 6 : 支払備金の計上方法は？

A 6

- ・ 元受モノライン（MBIA、FSA）が将来的な損失発生見込みも踏まえて算出した金額に基づいて計上しています。

以上